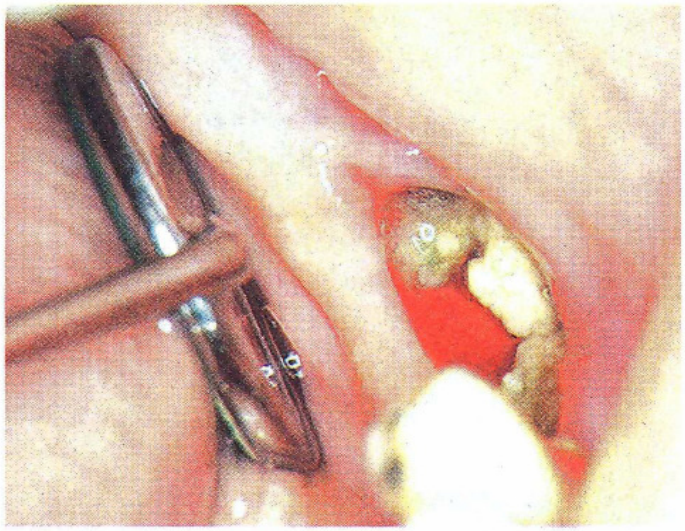
2011．3月
当教室の新谷　悟教授の記事が全国47地方紙に掲載されました。

激しい痛みや歯茎の腫れなど

骨粗しょう薬で顎骨に異変も

歯科の定期受診を



奥歯の歯肉に露出した壊死した顎の骨（新谷悟昭和大歯学部口腔外科教授提供）

閉経後の女性を中心に骨粗しょう症が増えているが、その治療に用いられるビスホスホネート系薬剤（BP製剤）によって顎骨壊死（えし）が起こることがある。BP製剤を服用している人は、定期的に歯科医に診てもらうようにしたい。

▽骨再生の調和崩す

BP製剤は、骨粗しょう症の治療に用いられるエチドロン酸2ナトリウムやアレンドロン酸ナトリウム水和物などの総称で、骨を壊す破骨細胞の活動を抑える働きがある。その半面、骨の再生のバランスを崩す働きもある。

昭和大学歯学部（東京都）口腔（こうくう）外科の新谷悟教授は「骨は常に再生を繰り返していますが、そのバランスが崩れるといろいろな弊害が生じてきます。中でも歯は外界と骨をつないでいるため、抜歯や歯周病などを契機として顎骨壊死を起こしやすいのです」と説明する。

初期症状は顎の骨の激しい痛みや歯茎の腫れ、骨の露出、骨壊死など。ひどくなると顎の骨が変形したり、なくなったりする。

▽歯周病予防を

そのため、BP製剤を服用している人は、こうした副反応があることを念頭に置いて予防を心掛けたい。

「定期的に歯科医で歯垢（しこう）を除去してもらうとともに、日常生活ではブラッシングを徹底して歯周病を予防する。また、服薬時にBP製剤が歯茎などに残ると、潰瘍を起こしかねないので十分な水で服薬するといいのです」

予防を心掛けていても、顎の骨の痛みや露出があった場合は、迷わず口腔外科を受診すべきだ。

「以前は経過観察をすることが多かったのですが、最近は後手に回らないために積極的に治療します」

治療の基本は壊死した骨を削って粘膜を縫う手術。早期に治療すれば顎の変形は防げる。（メディカルトリビューン＝時事）

◇　◇

昭和大学歯科病院の所在地は、郵便番号145－8515　東京都大田区北千束2の1の1。電話03（3787）1151（代表）。